

Carnauba wax

カルナバワックス



S.KATO & CO.

Carnauba wax

**カルナバワックスは
地球環境に優しく、
サステナブルな天然ワックスです。**



幅広い産業分野で活躍

カルナバワックスの生産は、200年以上の歴史があると言われています。つや出しをはじめとする用途に古くから使用されてきたカルナバワックスは、近年では印刷インキ、化粧品、食品などさまざまな分野で重要な原料となっています。

加藤洋行では、直輸入品のみならず、子会社の日本ワックスにて精製・粉末加工を行い、あらゆるニーズに応じたさまざまな加工品を提供しております。

カルナバワックスの特性

- ・非常に硬い（針入度1以下）
- ・離型性・分散性に優れる
- ・良好な光沢付与効果
- ・シャープな融点・凝固点
- ・天然ワックス
- ・エステルワックス
(樹脂との相溶性に優れる)

地球環境に優しくサステナブル

カルナバワックスは、「COPERNICIA CERIFERA MART」と呼ばれるヤシ科のカルナバヤシの葉から採取されるワックスです。 ブラジル北部で年間約16,000トンが生産され、世界中に輸出されています。

ヤシの葉を切り取って10日程度天日に干し、葉の表面からワックスを採取するため、ヤシの木を伐採することなく、サステナブルな生産・供給が可能です。



製品ラインアップ

| 製品名 | 形状 | 入り目・風袋 | 特長 |
|------------------|---------------|------------------------|------------------------------------------------------|
| 精製カルナバワックス1号 | フレーク /ブロック | 25Kg入りPE袋 | ブラジル現地精製業者が製造した輸入品・主に一般工業用。 |
| 精製カルナバワックス2号 | | | |
| 精製カルナバワックス3号 | | | |
| 精製カルナバワックス1号FP | ペレット | 20Kg入りカートン (PE内袋入り) | — |
| 精製カルナバワックス1号粉末 | 粉末 | 20Kg入りカートン (PE内袋入り) | ブラジル現地精製業者が製造した輸入品を当社工場(日本ワックス)にて粉碎した微粉末品・主に一般工業用。 |
| 精製カルナバワックス2号粉末 | | | |
| 精製カルナバワックス特製No.1 | フレーク | 20Kg入り紙袋 | 輸入した1号・2号を当社工場にて独自の方法で不純物を除去した精製品。化粧品・電子関連精密機器用途に最適。 |
| 精製カルナバワックス特製No.2 | | | |
| 精製カルナバワックス特製1号粉末 | 粉末 | 20Kg入り紙袋 (PE内袋入り) | 輸入した1号・2号を当社工場にて独自の方法で不純物を除去後、粉碎した精製微粉末品。 |
| 精製カルナバワックス特製2号粉末 | | | |

規格

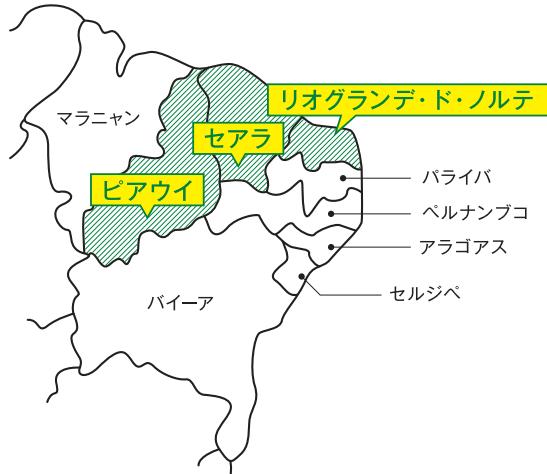
| 規格 | 日本薬局方 | 食品添加物公定書 | 医薬部外品原料規格 |
|-----------|----------------------------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------|
| 性状 | 本品は、淡黄色～淡褐色の固くてもろい塊または白色～淡黄色の粉末で、わずかに特異なにおいがあり、味はほとんどない。 | 本品は、淡黄色～淡褐色の明瞭な破断面のある固くてもろい固体で、芳香がある。 | 本品は、淡黄色～淡褐色の固体で、わずかに特異なにおいがある。 |
| 比重 | 0.990～1.002 | — | — |
| 融点 | 80～86°C | 80～86°C | 80～86°C |
| 酸価 | 10.0以下 | 10以下 | 10以下 |
| けん化価 | 78～95 | 78～95 | 78～95 |
| ヨウ素価 | 5～14 | — | — |
| 鉛(Pbとして) | — | 2μg/g以下 | — |
| ヒ素(Asとして) | — | 3μg/g以下 | — |
| 強熱残分 | — | 0.25%以下 | 0.3%以下 |
| 純度試験(重金属) | — | — | 20ppm以下 |
| 純度試験(ヒ素) | — | — | 2ppm以下 |

※各規格より引用(可読性を考慮し、当社が一部編集)



サステナブルな 産出・生産・加工

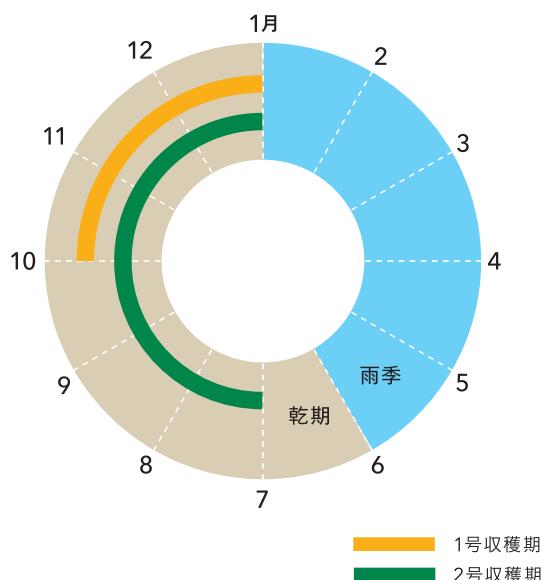
カルナバワックスは、主にセ阿拉州、ピアウイ州、リオグランデ・ド・ノルテ州などの北ブラジルで、自生するカルナバヤシから産出されます。北ブラジルにおける生産高は約13,000～16,000トンで、うち85%～95%程度が輸出されます。輸出先は主にアメリカ、中国、ドイツ、日本、オランダ、スペイン、イタリアなどです。



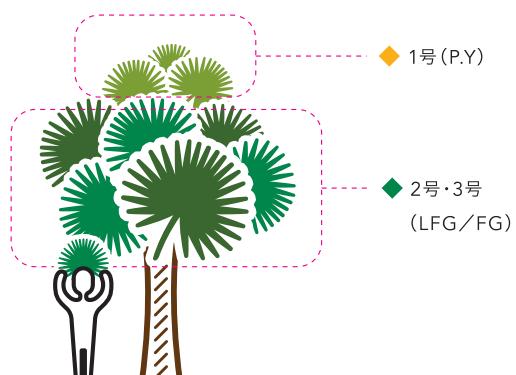
カルナバヤシの 収穫サイクル

カルナバヤシの葉にふく粉がカルナバワックスの原料です。粉がふくためには一定期間の降雨と日照が必要です。一方で、粉がふく時期に多雨があると、葉の上の粉が流れ落ちることもあり、北ブラジルの気候の特徴である雨季と乾季に収穫量が影響されます。

- [雨季] 1～6月
新芽が生え、葉が成長する。
- [乾季] 7～12月
葉にワックスとなる粉が表出し、葉が落ちる。(収穫期)



樹木の先端にある新芽(若葉)に最上質の1号、下に向かって2号、3号となる粉がふきます。落ちた葉などから収穫し、樹木そのものを伐採する必要もなく、毎年サステナブルな産出が可能であり、また産出地における大切な雇用や収入を支えています。



お問い合わせ

株式会社加藤洋行

〒530-0041 大阪府大阪市北区天神橋2丁目3番8号 MF南森町ビル
Tel (06)6352-0421 [代表] Fax (06)6353-8185

<http://katoyoko.co.jp>